

委託事業実施内容報告書
平成 22 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【日本語学習指導者養成】

受諾団体 大阪府教育委員会

1. 事業の趣旨・目的

1. 大阪府内の識字・日本語教室は、ボランティアの人々によって支えられているが、近年、各教室の学習者の国際化、多様化が急速に進み、その対応に苦慮している。支援者の不足、学習のすすめ方や生活支援に関する相談への対応など多くの課題をかかえながら活動しているのが現状である。

本事業において、そうした課題をかかえる支援者が教室運営や学習指導において必要なことから学び教室を活性化するとともに、日本語学習支援に関心のある新たな地域人材を発掘し養成することによって、府民の生活の基礎を支える識字・日本語教室を充実させることを目的とする日本語学習指導者養成研修を実施する。

2. 企画委員会の開催について

【概要】

* 第 1 回企画委員会

開催日時	開催場所	出席者	議題
平成 22 年 6 月 28 日	大阪府庁新別館 北館 5 階 共用会議室 6	田中、太田 (大阪府(地域教育振興課)) 南口、北村(大東市) 大久保(四条畷市) 奥野(交野市)	研修目的 参加対象・参加者数 研修期間・研修内容 開催場所 講師 次回会議日程
会議の概要			
研修目的 ・新たな教室の設置や教室の拡充等に携わる人材を育成			
参加対象・参加者数 ・日本語教室における指導に興味のある方や現在活動されている方を対象 ・市内在住にこだわらず、近隣市の方も受講可能とする ・最大参加者は 30 人を想定			
研修期間・研修内容・開催場所 ・ 10/21～2/17 の間、全 10 回。「教える」ことに重点を置いて教授法を学習する。 ・ 6 回全てを受講することになると、重いテーマに見られる講義の際には、敬遠されて受講者が少なくなるということもあるのではないかとの意見。			

- ・ 1つの案として、1回は日本語学習等の現状全般についての講義、1回は教授法、指導法の講義をセットにして、それぞれ異なる市3市で実施するというのも受講しようとする方々にしても参加しやすいのではないかと。(大東市は同じ文化庁事業を活用して研修を実施予定)

講師

- ・澤田さち子氏

次回会議日程

- ・ これまでの意見等を踏まえ、それぞれの市に持ち帰り検討していただいて1週間後に再度会議することにする。

* 第2回企画委員会

開催日時	開催場所	出席者	議題
平成22年 7月6日	大阪府庁新別館 北館5階 共用会議室6	笹中、田中、太田 (大阪府(地域教育振興課)) 南口(大東市) 西口、大久保(四条畷市) 奥野(交野市)	研修の基本スタンス 研修規模 研修実施内容

会議の概要

研修の基本スタンス

- ・ 何回かの講義をトータルで受講することにより一定レベルが確保されるような、体系的な内容とする
- ・ 増加する学習者に対応できるように指導者を拡充する必要があることから、初級者、中級者だけでなく初心者も対象とする
- ・ 指導者のニーズから教授法、指導法の講義も含め、日本語学習等の現状とあり方や人権教育の視点に立った講義を内容とする
- ・ 実施日は10月初旬から2月上旬までの間の土曜日とする
- ・ 募集人員は30名程度とする

研修規模

- ・ 1回3Hで計6回の研修とし、第1回目は開講研修と位置づけ、日本語学習等の現状などの講義とし、第6回目は閉講研修ということで、研修全体のまとめとなるような研修とし、間の2回目から5回目までの研修については、教授法、指導法の講義を中心に研修参加者による班別協議を行うこととし、北河内ブロックの各市1研修ずつ、4市で実施できるようにする

研修実施内容

- ・ 第1回目の研修は、日本語学習についての全体的な講義とし、研修参加をより多く促すためにもインパクトのある講師が望ましいとのことから、大阪大学の西口光一教授に依頼することにする
- ・ 2回目から5回目からの4回の研修については、2回ずつに分け、2回を同じ市の2市で実施することとする
- ・ 講師については、新矢准教授、中山准教授らにお願いしようということを最優先にしながら、外国人の方で日本語を学習する側の立場で日本語学習について、現状や感じ方などの話ができるような人がいないか検討
- ・ 2回目から5回目までの研修の会場は、京阪沿線とJR沿線の市に分ける
- ・ 2回は四條畷市で会場確保するので、残り2回は京阪沿線の守口市をお願いする
- ・ 第1回目と第6回目の研修の会場は交野市をお願いしたい
- ・ 受講者募集の案内は各市の市広報により行うこととし、申込みの窓口は地域教育振興課か本事業の委託先である識字・日本語研究会が行うよう調整

以上、検討の上、実施内容を決定する

第1回目 H22.10.2(土) 13:30~16:30 交野市

第2回目 A H22.11.6(土) 13:30~16:30 四條畷市

第3回目 B H22.11.20(土) 13:30~16:30 守口市

第4回目 A H22.12.4(土) 13:30~16:30 四條畷市

第5回目 B H22.12.11(土) 13:30~16:30 守口市

第6回目 H23.1.22(土) 13:30~16:30 交野市

* 第3回企画委員会

開催日時	開催場所	出席者	議題
平成22年 6月28日	大東市立総合 文化センター	田中、太田 (大阪府(地域教育振興課)) 田村(識字・日本語研究会) 淡路、藤田(門真市) 池田(守口市) 池田、田中、西口、大久保、 椎原(四條畷市) 南口、北村(大東市) 西本(寝屋川市)	研修の実施説明 各市町村からの現状 報告・意見・要望 広報の予定

		木村、林(枚方市) 奥野、東(交野市) 坂田、村上、日生下、東村、 高橋、中田、南口、北村 (大東市)	
会議の概要			
<p>研修の実施説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回、第2回企画会議に出席している大阪府の太田氏、交野市の奥野氏より、各市の行政担当者、教室運営者に研修の実施概要を説明 <p>各市町村からの現状報告・意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議出席者から、順に市のボランティア研修をどのように実施しているか報告 <p>今回の研修実施を歓迎する市が多かったが、枚方市からは新たなボランティアには必ず市独自で行う研修を受けるように仕組み作りをしているので、今回の研修を受けた人からボランティアを始めたいと教室に来られた場合にどう対応するか考えなくてはならないとの意見がだされた。</p> <p>広報の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の広報誌に掲載する場合は締め切りの日程があるので、掲載内容を決定した段階で、締め切り日に間に合えば掲載する。ただし、字数が限られているので、あまり詳しい内容を掲載することは出来ないとの意見がだされる。 ・広報誌掲載以外でも公民館などにちらしを設置したり、市担当者から教室のボランティアにお知らせをする 			

* 第1回 運営委員会

◇日 時:平成22年7月20日(火)

15:00 ~ 16:30

◇場 所:HRCビル4階 第1研修室

◇次 第:1 あいさつ

2 今年度の識字日本語学習の推進について

- ・現状と課題
- ・取組みの概要
- ・取組みの効果
- ・事業予算
- ・専門部会

3 日本語学習指導者養成研修について

- ・企画会議の報告

4 その他

○ 情報提供

- ・「識字推進指針」及び「識字推進計画」の策定状況について
- ・『もつとしゃべろ！！～自分でつくる学習ノート～』
- ・「四條畷市識字基本計画」への新聞取材について

* 第2回 運営委員会

◇日時:平成22年10月8日(金) 13:30 ~ 15:00

◇場所:HRCビル10階 特別会議室

◇次第:1 あいさつ

2 「平成22年度 日本語学習指導者養成研修」について【報告】

3 研修を実施する際の留意点

4 その他

○ 情報交換

* 第3回 運営委員会

1 あいさつ (地域教育振興課 首席指導主事)

2 北河内ブロックでの「日本語学習指導者養成研修」実施についての報告(研究会)

- ・受講人数、各回の実施体制など報告。
- ・各市の広報誌は1日発行のところと中旬発行のところもあり、先着順ではなく、抽選で受講者を決定することが必要。各会場の広さも確認し、全員に受講してもらえる予定。
- ・いろいろな問い合わせがあったが、すべて対応できた。
- ・申込者の男女比は、大半が女性であった。
- ・経験者の数が増えた。全回希望の方には四條畷会場に回ってもらった。

3 研修について (研究会)

- ・教室の目的は何か、どんな教室にするのか、どんなことをめざすのか。
- ・府内に約200の教室があるが、それぞれに特徴がある。
- ・交流中心の教室、支援者は全員が有資格者という教室、全員がボランティアという教室等

(お願い)

- ・それぞれにこれから研修を実施していただきたいが、なかなか予算とれない。今年は文化庁の事業予算で実施。できれば、各ブロックで集まって計画を立ててほしい。その際には私も参画させていただきたい。

4 情報交換

(研究会)

- ・識字教室担当の教育委員会と日本語教室担当の課がうまく連携できていないという話を聞くが。

(忠岡町)

- ・現在、先生 1 人、中国人学習者 5 人。2 級の資格を取るため、必死で勉強。帰国したら、給料高い仕事につけるらしい。
- ・週に 2 回、いつも 2 人で教室に出ている。
- ・本町では、国際交流は人権で担当している。

(柏原市)

- ・本市は大企業はなく、1つの日本語教室に一人いるだけ。ブラジル人のコミュニティができているらしいが、教室情報を届けられていない。
- ・教室はH19年から社会教育課でやっている。国際関係担当の私はふれあい市民課だが、一緒にやらせてもらってる。何も問題なし。

(田尻町)

- ・今年、公民館で日本語学習講座を開くために受講者を募ったが、応募は 1 人だった。

(四條畷市)

- ・識字教室は社会教育課でやってるが、日本語教室の方とは連携できていない。
- ・指導者養成研修の実施体制の打ち合わせをお願いしたい。

(交野市)

- ・担当の奥野の代理で出席。指導者養成研修の実施体制の打ち合わせをお願いしたい。

(島本町)

- ・識字教室の学習者は解放同盟のおばちゃん 4 人だけ(1 人亡くなった)。一番下が 58 歳で、次の世代はいない。来年以降はどういう形で継続するか、やめるか、というところ。

3 養成講座の内容について

(1) 養成講座名

「北河内ブロック 指導者養成研修」

(2) 養成講座の目標

増加する学習者に対応するために必要な新たな教室の設置や教室の拡充等に携わる人材を育成

(3) 受講者の総数

78 人

(4) 開催時間数

3 時間 6 回(18 時間)

(5) 参加対象者の要件

北河内地域 7 市(枚方市・交野市・寝屋川市・守口市・門真市・四條畷市・大東市) 在住、在勤、在学の方

(6) 受講者の募集方法

大東市、守口市、交野市の広報誌に掲載(9 月 1 日付)
四條畷市の広報誌に掲載(9 月 15 日付)

各市公民館等にちらしを置き、担当者が教室運営者・支援者等に案内
申し込みは識字・日本語研究会にFAXもしくは電話で申込む

(7) 研修会場

交野市立保健福祉総合センター(第1回、第6回)

四條畷市役所(第2回、第4回)

守口市教育文化会館(第3回、第5回)

(8) 使用した教材・リソース

「日本語おしゃべりのたね」西口光一(スリーエーネットワーク 2006年)

「初めての日本語文法」野田尚史(くろしお出版 1991年)

「アンドラゴジーと人的能力開発論」堀薫夫

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
10月2日 13:30～ 16:30	日本語教育の現状 について 日本語教室の現状 について	大阪大学教授 西口 光一 富田林国際交流協会 前川 仁三夫	61名
11月6日 13:30～ 16:30	日本語のルール 再発見 その1	大阪教育大学 准教授 中山 あおい	38名
11月20日 13:30～ 16:30	日本語のルール 再発見 その1	大阪教育大学 講師 井ノ口 智佳	16名
12月4日 13:30～ 16:30	日本語のルール 再発見 その2	大阪教育大学 准教授 中山 あおい	30名
12月11日 13:30～ 16:30	日本語のルール 再発見 その2	大阪教育大学 講師 井ノ口 智佳	15名
2月5日 13:30～ 16:30	日本語学習支援者 に望むこと	大阪大学 教授 森 実	32名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

・本日はありがとうございました。久しぶりに学習者の気持ちになり、基本的なことの
復習、再確認の良い機会を得ることができました。他の方のアイデアを聞いたり、

実際に書いて勉強になりました。

- ・今日は本当にありがとうございました。勉強になりました。
- ・日々、中国からの帰国者(残留孤児とその家族中心)と学んでいます。参考になりました。ありがとうございます。
- ・今まで習ったことの復習も兼ねて、勉強になりました。
- ・具体的にいろいろ例をあげて説明していただいたので、わかりやすく、今後の参考になりました。ありがとうございました。
- ・以前に受けた講習を思い出して、新たに日本語を教える難しさ、楽しさ、そして自分も勉強しなくてはと思いました。ありがとうございました。
- ・形容詞の説明がわかりやすかった。
- ・正しい日本語の勉強ができました。いきとどいた説明とはっきりしたボイスですばらしかったです。
- ・日本語を伝えるのは、難しいと思いました。
- ・楽しかったです。
- ・より実践的な指導方法を教えていただき、ボランティアへの興味、関心がますます強くなりました。日本語文法の指導など、ある程度の知識を必要なのだということを学びました。それ以上に、教材などを使った学習は、とても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・改めて人に日本語を教えるのは難しいなと思いました。単語一つでも、その単語の漢字やカタカナやひらがなで教えるのではなく、絵や写真を使って教えるのが良い方法だと思いました。後、日本語の文法を勉強するのではなく、歴史や文化もこれから自分自身学んで行こうと思いました。
- ・形容詞について、私たちが習ってきた文法との違いがよくわかって、新しい発見ができました。地図を作って、説明する際にも、日本語にも地域の環境にも不慣れな方を対象にするのを意識することは、大切だと感じました。新しい視点ができて参加させていただいて、良かったです。ありがとうございました。
- ・昨年、ボランティア養成講座を受講し、登録したのですが、活動はまだしていません。このままでは無駄になってしまうかなと思い、事後研修のつもりで参加しました。具体的な指導方法も教えていただき、大変面白かったです。ありがとうございました。
- ・具体的に勉強を進める上で大変参考になりました。教材として何を利用したら良いかを知りたいと思っていましたが、教えていただいたことを参考にいろいろ試してみたいと思います。何を習ってみたいか良く分からない方に、何をどう教えてあげたら良いかや、助詞の使い方についても教えていただくと嬉しいです。ありがとうございました。次回を楽しみにしています。

② 実施主体からの研修内容結果評価

定員 60 名で募集した研修であったが、78 名の申込者があり、いずれも強く受講を

希望しておられたため、会場や関係者と協議し、申込者全員に受講していただくことにした。守口市の会場受講希望者のほうが四条畷市より多かったが、できる限り希望どおりの会場で受講していただいた。今回、受講者にとっては、第2回第3回とも同じ講師の担当で受講し、同じ回の別会場とは講師が違うという変則的なものとなったが、担当していただいた両講師には、できるかぎり同じ内容になるようお願いした。結果的には連続して同じ講師の研修を受けることで、前回とのつながりがあって良かったという点もあった。

研修内容については、学識者による学習支援に関する総合的な内容と、具体的に品詞の仕組みを通して日本語のルールを再発見する内容とがバランスよく組み込まれていて、受講者から大変有意義であったとの感想が寄せられた。特にワークショップの時間を充分設けたことにより、支援活動の経験者と未経験者が意見を出し合いながら学ぶことができた。

本事業の目的の1つは、日本語学習支援に関心のある新たな地域人材を発掘し、養成することであったが、「関心はあるがまだ活動はしていない」という受講者も、経験者といっしょに考え、活発に意見交換がなされており、受講後に識字・日本語教室での活動に参加する意欲がみられた。

また、現在活動中の人たちの中には教材や学習の仕方についての悩みを抱えている人も多かったが、日本語教育の現状や日本語学習支援の基本的な考え方など、学識者の話の中で知識を深めることができたと同時に、文法につながる「日本語のルール」を知ること、今後の学習支援に多いに役立てることができるものと思われる。このような研修を実施することで、支援者の裾野を拡げるとともに、支援者が悩みや迷いを持ちながら活動を続けることなく、充実した教室での学習支援活動ができるようになることを実感した。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

府民の生活の基礎を支える識字・日本語教室の充実のために、以下のような取り組みを計画している。

- ・必要とされる教室の立ち上げに取り組む
- ・教室をつなぎ支援者の交流・情報交換を活発にするとともに、課題を共有し、問題解決に取り組む
- ・地域の日本語学習支援ボランティアによる教室に適した教材を使い、活用の仕方や学習支援の留意点などを研修する機会を提供する

(11) 事業の成果

○ 他事業との連携

大阪府では平成21年度に行った「識字・日本語学習環境実態調査」の結果に基づく『日本語学習活動活性化支援事業』を府費及び文化庁事業の活用によって実施しており、府内全域での識字・日本語学習活動の充実（教材開発や学習支援者の拡大、新たな教室の立ち上げ、日本語学習活動の活性化等）に取り

組んでいる。

とりわけ、日常生活に困窮している人々を支えるセーフティネットの構築が喫緊の課題であり、この課題を解決するため、大阪府事業に加えて、「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」を活用して、行政担当者のネットワーク化、関係情報を一元化して発信するシステムづくりや新たな識字・日本語教室の立ち上げについての相談活動、地域人材を教室につなぐ方策等についての取組みをすすめる。

そして、地域協働のための効果的ネットワーク化を推進する取組みにより、府内のすべての地域において差別のない、人種を越えた相互理解をすすめ、よりよい共生社会づくりを図る。

(12) 今後の課題

外国人に対する生活情報・災害に関する情報をはじめ様々な情報のほとんどは地域の日本語教室から得ているという実態が、全国でも大阪府においても実態調査で明らかになっている。本事業における講座の中でも、森教授から「日本語が上手になっても日本人の友達は増えない」という現実がとりあげられた。さらに、学習者・支援者にとっての学級・教室の意味について、学習者・支援者にとって、学級・教室は「漢方薬のような安心できる場所」であり、「人生の意味や生き方を再発見し、創造する場所」であり、「社会に出ていくためのベースキャンプのような存在」であると言及。ゆえに、教室の支援者の役割は非常に大きく、生活相談、安心できる居場所づくり、学びやすい関係づくり、学習のための仲間づくり、学習の雰囲気づくりなどのすべてがボランティア任せになっているのでは、あまりにも負担が大きい。教室と地域がさらに交流を深め、地域全体、社会全体で支えていかなければならない。

しかし、現状では各教室での活動が精一杯で、他の教室や地域とのつながる余裕がないという支援者が多い。また、教室のある地域住民に教室の存在や活動が十分に知られていないところも多い。教室の形態や趣旨は色々な特徴があっても良いが、教室と目の前にいる学習希望者にだけ目をむけるのではなく、少子高齢化が進み、ますます外国人労働者や国際結婚が増加する日本社会において、外国人にとっても日本人にとっても住みやすい社会作りが重要であるとの視点を持ち、多文化共生社会における教室の役割を認識しながら活動できる支援者を養成し、教室の基盤を支え、持続可能な活動ができるようなしくみや施策のもとで、継続して支援者の資質の向上と新しい人材の発掘養成をしていかなければならない。